

---

# さァ、楽しい夜会の始まりだ

篠原

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

さア、楽しい夜会の始まりだ

### 【Nコード】

N9204E

### 【作者名】

篠原

### 【あらすじ】

ある日、俺の大事な大事な”あの人”がぼろぼろの姿で帰ってきた。詳しく問いただそうとしたが何も言わない”あの人”・・・それを見かねた俺は、独自のルートで”あの人”をあんな姿にした犯人を知る。知った瞬間すぐにそいつのもとに駆け出しそうになったモノを抑え込み、周到にソイツを消滅させる準備を整える。そして今夜、俺の中に潜む獣が牙を出す

活気にあふれた街がそろそろ寝静まるころ・・・

例えば普通の人々がちゃんと活動する時間でももと人通りが少ない裏道は、静まり返った今となつては、さらに人気がない場所だった。

いつもなら・・・

そこには、二人の男が対峙するように立っていた。が、しばらくすると、片方の男はその場でみっともなく尻もちをつく。

もう片方の男はそれを見てクスクス笑っていた。しかし目はどうみただけ笑っておらず、尻もちをついている男の恐怖心をさらに煽る。

男は、どうにかこの場を抜け出そうと必死に叫びたてる

「俺は知らなかったんだ！！嘘じゃねえ！」

「へえ？・・・でもさ、結局かわったことには変わらないんだし、その結果”あの人”を傷つけたことにも変わりないしんだし？」

そんなこと、俺にとっては関係ない。

ただ、”あの人”を傷つけたという事実だけで十分。

お前にとつてはただのオアソビ、だけど、俺にとつてはお前を仕留めるには十分すぎるほどのキツカケ・・・

「アイツを傷つけたことは謝る！・・・だから、頼む！見逃してくれ！！なんでもする！」

「・・・」

「金だつて払う！！・・・なあ、頼むよ！俺達ダチ、だろ？カイ・・・」

この期に及んでまだ命乞いをする男の姿は、カイ、と呼ばれた男にとってはただただ不愉快なものには変わりなくて・・・

”あの人”を平気で傷つけたクセに、自分のこととなると『助けてくれ』と命乞いをみつともなくするこの男が腹立たしくて・・・

しばらく、懇願する男をどこか虫けらでも見るような目つきで見ていたカイだったが、すぐに思いは決まったらしく、ふっと笑みをこぼす。

その姿に、男も多少ひきつってはいるがつかれて笑う。が、それは次の言葉によつて地にたたき落とされることになる。

「ダチだからつて許してもらえると？・・ハッ、笑わせんじゃねえよ。そんな考え、”あの人”に手エ出した時点で俺にとつては何の意味もなさない。たとえそれが俺の兄貴や弟だろうが、親だろうが、関係ない。ただ、俺は”あの人”を傷つけたやつをこの手で排除するだけだ」

「・・・あ・・・」

「まあ、お前もあの時”あの人”に手を出した自分の人生を呪うんだな」

「・・・ヒイ！！！！」

そう言うときカイは静かに尻もちをついた男の方へと歩み寄る。

男は、顔は笑っているが醸し出す雰囲気と、何よりまるで捕食者・・・狩るものの眼をしたカイに恐れをなして、とっさに立ち上がると何も考えずに走りだす。

カイはそれを何とも思わず、走って追いかけるようなこともせず、ゆっくりゆっくり普段どおりの歩調で、逃げ出したエモノを追いかける。

その通り道は幾重にも分かれ道があり、一つでも間違えれば見当違いの場所に出てしまう。

それなのにもかかわらず、カイは確実に男を追い詰めていた。まるで、そんなことは計画の内で、目的の場所へと追い詰めているかのように

しばらくして、正にその通りだった。

男は行き止まりに直面してしまい、あわてて引き返そうとすれば、出口付近にはすでにカイが仁王立ちしていて。

その手にはどこで手に入れたのか、細めのパイプが握られていた。

男はその姿を見てさらにビビり、行き止まりだとわかっているはずなのだが、すこしでもカイから逃げたい一心でもと来た道を逆走する。

しかし、何度来ても壁は動いたりするわけもなく、ついに男は追いつめられた。

どうにか壁を登ろうとするが、取っ手になるものがほとんどない壁をひよいひよい登れるわけもなく、男はすこし登ったところで焦りのせいか無様に落ちる。

しばらく痛みに顔をゆがませていると、いきなり顔に影がかかった。それに驚き眼をあけると、そこには

「おいおい、人の顔見た瞬間まるで化け物でも見たように逃げるのやめてくれよ。傷つくじゃないか」

そう言いながらにつこりと微笑むカイがいた。

しかし、そんな笑顔も男にとってはただの恐怖の対象にしかならず、また声にならぬ悲鳴をあげながら壁まで後ずさりする。

その様子をつまらなそうに眺めたカイは、手に持っていたパイプを何度か手に鳴らすように振りながら男に近づく

「逃げるなっっていつてんだろ？まだコッチの用事も終わってねえつつのに」

「・・・う・・・あ・・・」

「それに、まだお楽しみは始まったばかりだ。そんなツレねえ顔してんじゃねえよ。・・・ついついやり過ぎちまうだろ？」

「・・・お、俺・・・は・・・」

「おっと、今さら何も聞く気はねえぜ？もう幕は上がってんだ。今さら降りることはゆるさねえ」

そう言うとき、カンは振り回していたパイプで肩をぽんぽんと2、3度軽くたたくと、ゆっくり地面に下ろす。

それが道路にあたり、カランと乾いた音をたてる。そんな音にもビクつく男をカンは楽しそうに見つめながら、フンツと鼻で笑うと、

「さあ、夜会の始まりだ・・・」

逃げることは許さない。

これはお前の罪・・・

大事な大事な”あの人”を、無情にも傷つけたお前の・・・

俺は、誰が何と言おうと許す気はさらさらない。

さあ、もうすでに幕は上がったんだ。

楽しい楽しい夜会と洒落こもうぜ？

なア？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9204e/>

---

さァ、楽しい夜会の始まりだ

2010年10月28日08時49分発行